

六ヶ所再処理工場が動けば



田老町・真崎

**三陸の海にも放射能が押し寄せます**  
**安全でおいしい海の幸を食べ続けたい**

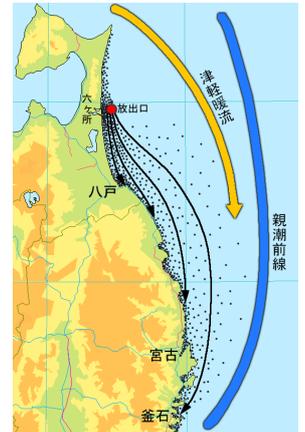
**だから青森県知事は**  
**再処理工場の試運転を認めないでください**  
**きれいな三陸の海を守るのは今です**

### 三陸の海が危ない - 海への放射能放出には濃度規制がない

再処理工場が動き出せば、むつ小川原港の沖合3km、深さ44mの放出口から、膨大な量の放射能が放出されます。南向きの津軽暖流に乗り、親潮前線にはばまれ、等水深線に沿って三陸沿岸にへばりつくように流れていきます。リアス式海岸の湾内にも入り込み、蓄積されます。

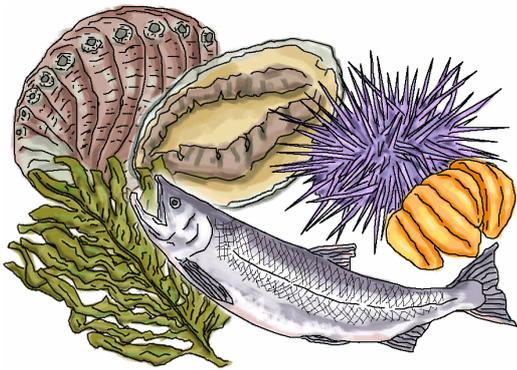
放出される放射能は、プルトニウムやセシウム、ヨウ素等、年に4万7千人分の経口急性致死量に相当します。海への放出には原発と違って濃度規制がありません。濃度規制すれば運転できなくなるからです。政府公認で、それほどの毒物をまき散らすのです。

再処理工場を運転する日本原燃は、三陸の海の放射能測定さえ行おうとしていません。



### きれいな海を守りたい。安心しておいしいワカメやアワビを食べ続けたい

岩手県の三陸沿岸は、世界三大漁場の一つと言われるほど、漁業や養殖が盛んです。養殖わかめは生産額で全国1位、2位の宮城県と合わせると三陸での生産量は全国の65%にも達しています。アワビの漁獲高は全国1、ウニやさけも全国2位です。これらおいしい三陸の幸は、全国に運ばれ、食卓を豊かにしてくれています。



ある漁業者は、「俺はマグロ船に乗って大西洋までも行ってきたが、この三陸の海ほど美しいところはなかった。この海を汚したら罰が当たる」と話しています。

三陸沿岸一体は釣りの名所でもあり、今の時期ならメバル、カレイ、メヌケ等が多くの釣りファンを楽しませてくれます。浄土ヶ浜の自然の美しさは、旅人の心をあらってくれます。

### 三陸の海と漁業を守るためにも、海の幸を食べ続けるためにも、試運転に反対しましょう

六ヶ所再処理工場では、4月にも試運転(アクティブ試験)が行われようとしています。試運転といっても、原子力発電所の使用済み核燃料を使った事実上の本格運転と同じで、海が汚染されます。

岩手県知事は2月28日の県議会で「水産業を守るため海は絶対汚してはいけない、日本原燃から速やかに説明を求め」と述べました。また、3月3日には、岩手県漁連が、漁場保全と水産物の安全を求め日本原燃に説明会を開くよう岩手県に要請しました。三陸沿岸の15市町村長は連名で、三陸の海の汚染を憂慮して、日本原燃に説明会を要求しています。宮城県でも漁業者が声をあげています。

試運転を認めるかどうかの最終的な事実上の決定権は青森県知事にあります。知事が試運転のための安全協定を結ばなければアクティブ試験は実施できません。青森県のみなさんと共に試運転に反対していきましょう。

**緊急です。あなたの気持ちを青森県知事に伝えてください**

美浜の会のホームページからメッセージを送れます

パソコンからは <http://www.jca.apc.org/mihama/reprocess/mail.htm>

携帯電話からは <http://www.jca.apc.org/mihama/i/i.htm>

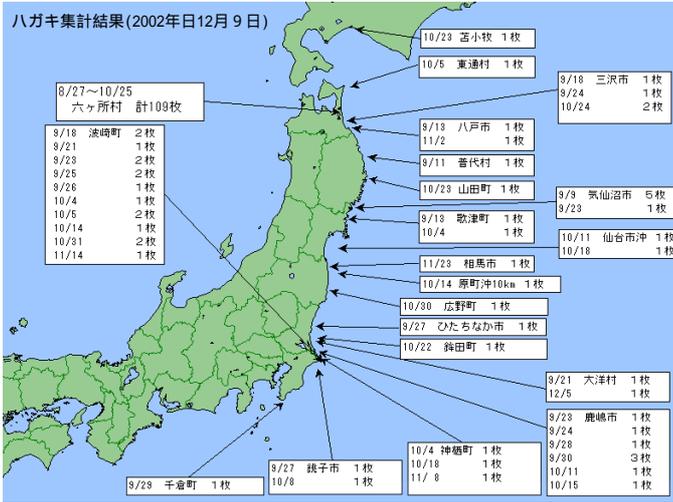
QRコード対応の携帯からは



青森県庁：〒030-8570 青森市長島一丁目1-1

青森県総務部秘書課 電話 017-722-2054 / FAX 017-722-6700 Eメール [hisyo@pref.aomori.lg.jp](mailto:hisyo@pref.aomori.lg.jp)

知事宛メールは終了しました



## 放射能は海岸に沿って流れる ハガキ放流実験が示すもの

2002年8月に「再処理止めよう！全国ネットワーク」は、再処理工場の放射能放出口付近から約1万枚のハガキを海に流し海流調査を行いました。左の図がハガキが到着した地点です。六ヶ所村の泊漁港はもちろん、岩手県の山田町の定置網からも見つかリ、東京湾の入り口までにも到達しています。日本原燃や国は、放射能は拡散され薄まるので問題はないと言います。しかしハガキが示しているのは、放射能が海岸に沿って流れ、湾にも入り込むということです。エチゼンクラゲの流れが示しているとおりです。

## 深刻な健康被害 - 子供を襲う白血病

フランスのラ・アーグ再処理工場周辺では、小児白血病が多発しています。1997年1月の医学雑誌に発表されたピエル教授らの調査・研究では、子供が海岸で遊んでも、母親が海岸に行った場合に生まれる子供にも、魚貝類を多く食べても小児白血病が多く出る傾向が示されています(右図)。

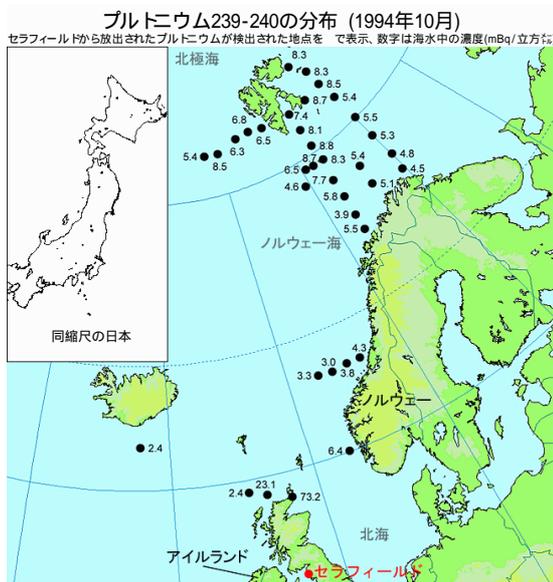
昨年、全米科学アカデミーが出した報告書(BEIR)では、微量の放射能・放射線でも人体に影響を及ぼすことを認めています。

三陸の海岸で遊ぶ子ども達の健康が心配です。

海岸汚染による小児白血病発生の相対的危険率(海岸と関係なし=1)



母親 - 海岸：母親が海岸に行った度合いに応じてその子供に白血病が生じる危険度  
 子供 - 海岸：子供が海岸に行った度合いに応じて生じる白血病の危険度  
 子供 - 魚貝食：子供が魚や貝を食べる度合いに応じて生じる白血病の危険度  
 Dominique Pobel & Jean-Francois Viel BMJ 314 1997年



"Continuing contamination of north Atlantic and Arctic waters by Sellafield radionuclides" P.J.Kershaw et al. The Science of the Total Environment 237/238(1999)119-132

## プルトニウムは海底に蓄積し、半永久的に海を汚染

日本原燃が行っている汚染の想定では、放出された放射能が海底に蓄積することを考慮していません。しかし、英国セラフィールド再処理工場の周辺海域の実態にこそ目を向けるべきです。放出されたプルトニウムは、海底の堆積物に蓄積され、魚介類を汚染し続けています。プルトニウムの半減期は2万4千年。半永久的に海は汚染されてしまいます。

また、英国再処理工場から放出されたプルトニウムは、左図のように、遠く北極海にも到達しています。プルトニウムは海水中の微粒子に付着するなどして、海流に乗り運ばれたのです。六ヶ所再処理工場が運転されれば、日本の広範囲な太平洋岸一帯が汚染されることになるでしょう。

アイルランドやノルウェー近海でとれた魚貝類からもセシウム等の放射能が見つかっています。アイルランド政府やノルウェーの漁業者達は英国政府に抗議しています。

## きれいな三陸の海を守るのは今です

アクティブ試験が始まれば、プルトニウム、セシウム、ヨウ素などの放射能が魚やワカメからも検出されることとなります。三陸の豊かな漁業を守りましょう。きれいな海を子や孫達に残し伝えましょう。安全協定の締結にストップをかけましょう。

美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会(美浜の会)

〒530-0047 大阪市北区西天満4-3-3 星光ビル3階

TEL:06-6367-6580 FAX:06-6367-6581 ホームページ <http://www.jca.apc.org/mihama> 発行 2006.3